

【住所】〒501-3781 美濃市片知 1109-4

森づくり片知支援センター内

【TEL/FAX】0575-37-2115

【MAIL】office@somanomori.or.jp

【HP】http://www.somanomori.or.jp/

SOMAP

NPO法人
杉の杜 学舎
SOMA NO MORI GAKUSYA
SINCE 2002

17

杉の杜通信

平成24年7月31日発行



みなさんはじめまして、丹羽健司、通称「ニワケン」と申します。山中さんのコトブキ退任の後を受けて副代表に就任させていただきました。事務も現場もみごとにこなされた山中さんに比べて、口先ばかりで全然戦力にはなりません。私がよろしく願います。その分、妄想と理想をごちゃ混ぜにした煽りそそのかしで貢献したいと思えます（笑）。

私は1953年奈良県生まれの58歳。過疎地での共同体による有機農業を目指して信州大学に入り放浪と転職を繰り返した末に、夢破れて27歳で農水省に入りました。それでも夢断ち難く食の安全始めいろんなことで農水省にたてつくアブナイ公務員として30年務めました。94年コメ輸入自由化がきっかけで農業部門からフェードアウトして「これからは森林だ！」と思った矢先に海辺へ飛ばされたり、紆余曲折の末にやっと三河山間部に赴任。そこで遭遇したのが00年の東海豪雨。数百か所の山肌が沢抜けをおこし矢作川は濁流に飲み込まれた。村の古老は「山に手を入れんもんで」と嘆息した。何のことか分からずあちこち聞いて回ったら人工林は放置林だらけだとわかった。「だから間伐が必要なんだ！」とガッテン。もっと聞いて回るとそんな山がどこにどれだけあるのか、行政も森林組合も山主も知らないことにもっと腰を抜かした。オイオイ、それじゃあ海図なき航海みたいなもの、いつ遭難してもおかしくない。そう、林政はすでに遭難していた。

そして、驚愕の事実が：私も実は山主だったのだ、ガン。そりゃえらいこっちゃと義父が早死にしていたのでオジに教えを乞うた。一緒に山に出かけた、でもどうも怪しい。きちんと習わねば…と師匠さがしをしてたら島崎洋路先生の塾に出会った。感動した。山仕事は科学だった。何よりも心地よかった。そしてもう一つわかった、オジも含めて山主のほとんどは私と同じ素人だということ。もっとえらいこっちゃ！

やることは決まった。きちんと科学的に愉快に学べ実践できる森林塾を作り組織すること、放置林がどれだけあるかを明らかにする流域市民調査を組織すること。前者が矢作川水系森林ボランティア協議会やとよた森林学校につながり、後者は「森の健康診断」で実を結んだ。そうしてあちこちにいろんな組織をつくり活動展開してきた。2009年からは恵那市で「木の駅プロジェクト」も始めた。「軽トラとチェーンソーで晩酌を」のキャッチコピーで村のおやじたちの心をつかみ始めた。

ますます忙しくなった。アブナイ公務員も限界、クビのアブナイ公務員ではシャレにならない。そんな時にたまたま講演に出かけた鳥取から、豊田市や恵那市で展開してきた森林塾、森の健康診断、山里の聞き書き塾も、そして木の駅プロジェクトなどをまとめてノウハウ移動してくれないかという依頼が来た。「好きなようにやってください。」「やったあー」「ただし

給料は半分以下になるけど…」と声が小さくなった。天使の微笑みか、はたまた悪魔の囁きか…、2010年4月、気がついたら早期退職して鳥取に居た(笑)。



【上】「軽トラとチェーンソーで晩酌を」が合言葉の鳥取智頭「木の宿場」プロジェクトで木を出荷する軽トラックの列

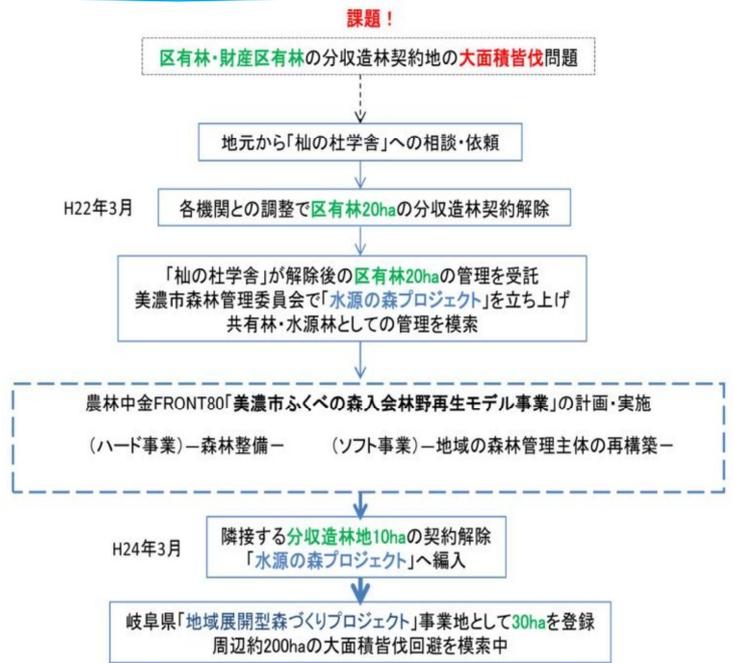
そして鳥取県智頭町での2年間で怒涛のように過ぎ、少しゆっくりしようと思っていた2012年6月15日夜、私は美濃市片知の木の杜学舎の総会で乾杯をしていた。また新たなスタートだ、この片知で何が始まるのか何を始めるのか、ワクワクドキドキしています。こんなニワケンをよろしくお願いします。



組手什(9de10)とは39×15×2000mmの組手加工がされたスギ板のこと。簡単に暮らしの木層化ができる。間伐材を地域の製材所が加工し20本1万円で販売されている。価格の5%が素材生産地の森づくりに直接支援される上、そのノウハウは完全公開されている。

丹羽さんが目指すのは山が元気になり、人が元気になり、地域が元気になることだ。間伐材で作ったDIYキットの組手什おかげまわしの取り組みもその一つ。弱いものをつなげて強くする組手什は震災支援にも役立っている。既存の考え方にとらわれないその発想と度量の大きい人柄が木の杜学舎を新しい境地に導いてくれるかもしれない。▼森の健康診断ポータルサイト <http://mori-gis.org/> ▼木の駅プロジェクトポータルサイト <http://kinoeki.org/> ▼組手什(9de10)ポータルサイト <http://9de10.org/>

「水源の森プロジェクト」 経過報告



水源の森プロジェクト これまでの流れフロー図

片知区が国有林との分収契約を解除した20haに続き、隣接する美濃市有林・下牧財産区有林も国有林との分収契約を解除し立木のまま買取りました。ふくべの森の源流部30haの共有林を杉の杜学舎が管理受託することになり、地元や他団体との連携の下でますます一体的・恒久的な管理をしていく必要があります。そこで、県の地域展開型森づくりプロジェクトの事業地として登録し、県の協力も得ながら今後の施業を行いやすくしました。今後も地元との協力関係を深めながら、水源地でもある共有林にふさわしい森づくりのお手伝いをしていきたいと考えています。

【事業報告】2011年度

●美濃市ふくべの森入会林野再生モデル事業

農林中央金庫森林再生基金（FRONT80）の助成を受け美濃市片知地区の区有林を中心に「美濃市・ふくべの森入会林野再生モデル事業」を実施しました。

保残木マーク法による間伐モデル林の整備と地域住民を対象にした勉強会と研修会を実施した結果、地元其林業グループが立ち上がるなど一定の成果を得ました。

スギ林1.89haの間伐モデル林として「保残木マーク法」で間伐。809坪の作業路を開設し、チェーンソーと小型林内作業車で234㎡の間伐材を搬出しました。

5月の水源林勉強会を皮切りに地元住民対象の研修会を当事業地内で5回開催し、作業前の林分の林分調査、作業路開設後の伐採・搬出研修、および共有林の利用方法についての話し合いを行いました（そまつぶ16号紹介）。施



研修会（薪づくり）



研修会（伐木）



モデル林（作業後）



研修会（話し合い）



研修会（搬出）



勉強会「森を地域の財産に」

業指針や研修会の様子などを報告書としてまとめました。報告書は片知区全戸に回覧のうえ、自治会に保管されています。

● 絆の森整備基本計画策定業務委託事業

美濃市の地域住民の生活が緑豊かで自然環境と調和したものにするために、かつて日常の暮らしと森林が密接な関係であった頃の生活スタイル・価値観に学びながら、地元住民が共通認識を持って、新しい枠組み(新しい公共)のなかで、それぞれの地域にふさわしい森林及び森林に関する事柄の保全と活用を实践するとともに、森林と人との多様な関係を再度構築することにより地域社会の維持・存続につなげていくことを構想の理念とする「美濃市・絆の森基本計画」の策定を美濃市から委託を受けて作成しました。



森林管理委員会で基本計画の概要を説明し、意見聴取を行う

● 市町村緊急雇用創出事業

市町村緊急雇用創出事業として「ナラ枯れ病被害調査委託事業」「絆の森実態調査及び整備計画策定業務(瀧神社周辺)」「観光施設環境整備事業」「洲原神社社叢周辺整備事業」「鶴形山景観整備」「埋立処分場等除草業務」「鶴形山登山道架橋工事」を実施しました。

この事業は、美濃市森林ボランティア倶楽部はじめ地域の皆さまのご協力で実施しました。有難うございました。



鶴形山景観整備事業(展望台)



洲原神社社叢整備



ナラ枯れ病調査事業



鶴形山景観整備事業(登山道)



観光施設整備(長良川左岸)



観光施設整備(和紙の里会館)

平成23年度 柚の杜学舎 事業収支報告		金額
科目		
I. 経常収益		
(1) 受け取り会費	¥	63,000
(2) 受け取り助成金	¥	3,530,000
(3) 事業収益	¥	21,187,742
(4) その他収益	¥	12,310
経常収益計	¥	24,793,052
II. 経常費用		
(1) 人件費	¥	15,177,002
(2) その他の経費	¥	8,152,508
経常費用計	¥	23,329,510
当期経常増減額	¥	1,463,542

(総会報告) 6月15日定期総会が開催され、副代表理事 山中亘氏が退任し、後任に丹羽健司氏が就任しました。

(主な事業)
間伐事業
美濃市ふくべの森入会林野再生モデル事業
ナラ枯れ病被害(カンノナガキイムシ被害)調査
絆の森実態調査及び整備計画書等作成業務委託
絆の森整備基本計画策定委託
観光施設環境整備事業
洲原神社社叢周辺整備事業
鶴形山景観整備事業
その他